

早期診断
早期対応

認知症になっても楽しく豊かに安心して暮らすために

日常の暮らしでの発見と気づき

相談から診断

サービス利用 (介護保険のサービスと地域のいろいろなサービスを利用しよう。)

あれっ
認知症かな?と思ったら

地域包括支援センターに
早めに相談しましょう

地域で

医療で

介護で

福祉で

*綾川町認知症医療連携シートを利用



確定診断

なじみの地域

介護認定

サービス
担当者会議

まずは
受診、診断

日ごろから
人との交流
を大切に

なじみの地域



なじみの地域



介護予防サポーター (認知症サポーター) とは認知症を正しく理解し、認知症の人やその家族を見守り、応援する人のことです。町で養成講座を行っています。

みんなで介護予防サポーターや認知症サポーターになっておこう

◎「ロバ隊長」は、「認知症サポーターキャラバン」のマスコットです。認知症サポーターの「キャラバン」(隊商)の隊長として、「認知症になっても安心して暮らせる町づくり」への道のりの先頭を歩いています。

認知症集中支援チーム (地域ケア会議)

地域包括支援センターが開催

からだ・心・暮らし方・環境等の状況を確認しながら、よりよい対応についてみんなで話し合います。

認知症サポート医、ケアマネ、家族、地域ボランティア、訪問系専門職、通所系専門職、民生委員、医師、保健師、社会福祉士、社協職員等

一人じゃないよ
抱え込まないで

行動・心理症状で困ったときは

グループホーム

小規模多機能

特別養護老人ホーム

老人保健施設

有料老人ホーム

介護療養施設

福祉用具

住宅改修

ささえあいの輪・話・和

認知症は恥ではありません。今は誰もが認知症になるか接することになる社会です。

認知症は高齢者に最も多い病気の一つです。85歳の約半数、95歳の8割は認知症と推定されています。また、若年認知症の方もたくさんおられ、その対応や就労等、課題となっています。

認知症は脳の障害によって認知機能が低下し、社会生活に支障をきたすようになった状態を言います。

主な認知症のタイプ

- ・アルツハイマー型認知症
- ・レビー小体型認知症
- ・前頭側頭型認知症(ピック病)
- ・血管性認知症
- ・その他

うつ病など認知症とよく似た症状の病気もあるので正しい診断が重要です。

認知症は適切な治療やケアによって進行を抑えたり、症状を軽減させます。

「薬物療法」、「非薬物療法」(音楽療法、回想法、園芸療法など)、「ケア」を適切に組み合わせることが大切です。ご家族だけでなく、医療や介護、地域の人々と連携してチームで支えていきましょう。

認知症の人と接するときの10のヒント

1. 一人の人としてふつうに接する
2. 自尊心を傷つけない
3. 笑顔で楽しく
4. 視野に入って話す
5. 聞こうとしている姿勢を示す
6. ゆっくりとひとつずつ話す
7. なじみのある言葉を使う
8. 本人が好むことやなじみのあることを話題にする
9. 不安や不快を感じていないか、注意を払う
10. 本人に必ず聞く、たずねる、確かめる



認 知 症

で も 大

丈 夫 な

ま ち 行 ぎ

その人の人生の集大成の時期、一人ひとりのストーリーと なじみを大切にしながら、本人・家族・地域と専門職がともに